

## <センター通信>図書館とデータベースの経済効果

著者	山田 奨治
雑誌名	日文研
巻	55
ページ	43-45
発行年	2015-09-30
URL	<a href="http://doi.org/10.15055/00006466">http://doi.org/10.15055/00006466</a>

## <センター通信>図書館とデータベースの経済効果

著者	山田 奨治
雑誌名	日文研
巻	55
ページ	43-45
発行年	2015-09-30
URL	<a href="http://doi.org/10.15055/00006466">http://doi.org/10.15055/00006466</a>

図書館とデータベースの経済効果

山田 奨治

平成二六年度から情報管理施設長（情管長）を仰せつかっている。組織図上の情管長は、大学でいうならば附属図書館長と情報センター長と出版部門を足し合わせたような重職である。わたしのような者がなつてよいのだろうかと不安もあったが、幸い優秀なスタッフに恵まれて何とか務めている。情管長ともなると、平教授には知らされないような、さまざまな情報が伝えられる。もちろん、よい知らせも悪い知らせもある。また、思いがけず興味深い知らせもあるのです、その一端を紹介したい。

日文研が所蔵する資料の撮影や写真原板、ネット非公開の高精細デジタルデータを利用する場合は書面での申請をいただいているのだが、すでに画像データベースで公開しているデジタル画像の利用で済む場合は、メールでの簡便な申請だけで許諾している。申請があまりに多くて担当者が音を上げため、平成二六年一月から手続きを簡略化したのだ。

もちろん、一部の用途を除いて対価はいただいていない。もともと税金を使って集めた資料を、税金を使ってデジタル化したものだ。ネットで公開している画像を使ってもらうだけのことに、あらためて対価を求める理由は乏しい。思い起こせば、データベース利用に受益者負担を求める新自由主義の嵐が、日本の学術界にも吹き荒れた時代があった。オープンアクセスが叫ばれるいまとなつては、それももう過去の話

だ。

さて、データベース公開している画像の利用申請が寄せられるたびに、情管長にはその報告があがる。そのなかには、なかなか傑作な用途もある。日文研図書館では特色ある資料を収集してきた甲斐あって、学術的な書籍等への転載希望はもとより、非学術分野の書籍等でのイラストの利用や、テレビ番組での「引用」などもある。

例えば、誌名から想像するに、どうみても「通俗的」大衆誌や官能系と思えない雑誌編集部からの申請がある。この種の申請はたいいてい、当センターが誇る「艶本資料データベース」の画像を希望している。非学術分野の雑誌や図書では「怪異・妖怪画像データベース」からの画像転載もたいへん多い。

テレビ番組のなかで映したいという希望では、「風俗図絵データベース」「平安京都名所図会データベース」が比較的多いように思う。どちらも日本や京都の昔の様子を描いた画像資料で、テレビ映えのする「いい画」になるとみてもらっているようだ。

所蔵地図データベースの画像が、京都市内の分譲マンションの広告に利用されたこともある。歴史ある土地に建てられ

た物件であることを醸し出すのに、古地図は格好のイメージ素材になっているようだ。

こういった産業界からの利用は、実はたいへんな経済効果をもたらしていることはまちがいない。在京民放のテレビコマーシャルの放映料金は、一五秒一本あたり最低でも四〇万円、ゴールデンタイムなら百万円以上はする。仮に日文研の資料がその所蔵者名のテロップ入りで一五秒放送されたら、そこにはその長さのコマーシャル放映料金分の経済効果が生じる。新聞や雑誌での利用も、広告出稿料金でその経済効果を計ることができる。それらを足し合わせたら、日文研の図書館とデータベースが生み出している価値は、いったい如何ほどになるのだろうか。

マンション広告の場合、日文研の資料が醸し出したイメージが決め手になって物件を購入したひとがひとりでもいれば、その物件の価格分の経済効果を生んだことになる。それは数千万、あるいは億に届く金額かもしれない。

余談になるが、日文研のある桂坂地区の住宅販売チラシでかつて、この街に住む子どもたちは日文研の教授から講義を受けられると宣伝されていた。隣の桂坂小学校でつづけている「出前授業」のことである。日文研のあることが、地域に

そうした付加価値を生んでいることも、忘れてはならない。だが、こうした屁理屈を考えてみても、何の役にも立たなさそうな人文・社会学系の学部など国立大学から減らせという、監督官庁の大号令に抗することはできないだろう。人文社会学系の学術機関が生み出す多様な価値に広く目配せできる政治家や官僚は、日本の学術行政からはいなくなってしまうだろうだ。

(国際日本文化研究センター情報管理施設長)

## 財務運用係の仕事

須田秀美・亀井祐子

私達は、管理部総務課財務運用係に所属しています。財務運用係は、旅費担当と物品担当に分かれており、私達物品担当は、物品の購入・印刷物の発注・役務、財務会計処理などを行っています。私達の仕事を簡潔にお伝えしようとあれこれ頭を巡らせてはみたものの、これといったピッタリの一言が見つかりません…。人と接することも多い仕事なので、特別

大きな力にはなれなくとも、先生方や事務職員の方々の「縁の下の力持ち」的な存在になりたいという気持ちで、毎日元気に上司の指示のもと仕事をするようにつとめています。

日文研では、書籍以外の購入・役務は財務運用係を通しての発注となり、教員発注は認められていません。先生方や各課・係から購入の依頼をうけ、物品・役務等の購入の段取り、見積・発注・納品までをするのが、主な仕事です。物品の購入と一言で言っても商品の選定、見積・発注・納品、会計処理を終えるまでに、半月から1ヶ月、時には数ヶ月の日数を要します。担当者と打ち合わせをしたり、いろいろな業者の方とお会いしたり、電話やメールでの打ち合わせや交渉、時には情報を教えていただきながら仕事を進めていきます。商品や金額、数量に間違いはないか、在庫はあるか？納期は大丈夫か等、もう数え切れないほど同じ事を繰り返しているのに、未だに緊張が走るのです。中にはとても高価だったり、珍しかったり、検品するのも恐れおおいと思う物もあり、無事納品を確認したときには、いつも以上に安堵感が広がります。

依頼をしようか、迷ってらっしゃる時に相談を受けることもあります。もちろんお役に立てる時、立てない時もありま